

夢の橋

JJ1SXA/池

「レインボーブリッジ」を、何故「夢の橋」と命名しなかったのか不思議という外人が多いそうです、「東京スカイツリー」の命名にも、「ゆめみやぐら」という候補があったようですが、日本人はカタカナ英語が好きな人種のようなのです。

明治の昔から、舶来物をありがたがっていた習慣が今でも抜け切れていないことと、英語を使うことが増えたことが原因かも知れません。

そして、このカタカナ語は和製英語の氾濫にも輪をかけています、例えば、パネラー (paneler) とパネリスト (panelist)、panel に er をつけて paneler、何と無く本物の英語のようだがこれは和製英語だ、日本ではパネラーで何も疑問を感じずに通っている。

「スシ…寿司」、「テンプラ…天ぷら」、「ゲイシャ…芸者」、「フジヤマ…富士山」等は、そのまま外国に通じる日本語として有名ですが、他にも、「スキヤキ…すき焼き」、「カラオケ」、「サケ…日本酒」、「マンガ…漫画」、「ボンサイ…盆栽」等も一般的に通じるようだし、他にも、「ラーメン」、「ミソ…味噌」、「トウフ…豆腐」、「ベントウ…弁当」、「ダシ…出汁」、「テリヤキ…照焼き」も地位を得ているようです。

まだまだあります、「イケバナ…生け花」、「ワカ…和歌」、「ハイク…俳句」、「ウキヨエ…浮世絵」、「オリガミ…折り紙」等々、外国の辞書に載る日本語は大分増えてきたようだが、これら外国に通じる日本語は、定着し日本語化した外来語の 1 割にも満たないとのこと、やはり外来語の方が大きく幅を利かせています。

世に氾濫する、若者たちの使うスマホ用語や、2チャンネル用語は、年寄りには全く難解ながら、それなりに地位を得て使われており、「日本語の乱れ」と嘆いていても始まらない、我々の受けた教育では、「世論…(以前は輿論だった)」は、「よろん」だったが、今は「せろん」で通るし、「重複」は「ちょうふく」だったが、今は「じゅうふく」の方が一般的のようで、言葉は世につれ何とやらで変わっていく、「言葉は生き物」だ。

前記の輿論とは、世の中の多くの人の意見という意味で、「輿」は、「車軸の上に置いて、その上に人や物を乗せる台のことで、転じて、人や物を乗せて、担いで運ぶ乗り物」という意味があり、そこから、「みんなの」という意味が生じ、また、「世間の人々の意見・考え」という意味の「輿論」という語が生じたようだが、「輿」は、1946 年公布の当用漢字表に含まれず、その時期にはほぼ同義で使用されていた「世論」(せいろん、せろん)で代替されるようになり、さらには、「世論」が「よろん」と読まれることも増えるかたちで、現在に至っていると wikipedia にあった。

そんなことを思っていると、あえて旧仮名遣いで文章を書いている有名人もいて、何と無く新鮮に見えると言う若者たちもいるようだ、私には、小学校低学年で習った旧仮名遣いはとっくにお蔵入りだが、それが新鮮だと言われると、「どうすりゃ～いいんだ」となってしまう…単に年寄りの愚痴にしか過ぎないようだ hi